

令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立福島小学校
校長氏名	嶋田 暢也
作成日	令和 8年 2月 20日

1 教育目標

徳育・体育・知育の調和がとれ、豊かな感性と正しくたくましく生きぬく力をもった子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で正答数が県平均を上回る。 ・学校評価アンケート「わたしは毎日の勉強がわかる」「わたしは人の意見をしっかりと聴いている」で「そう思う(わかる)」が児童90%以上を達成する。	・「わたしは学校が楽しい」「わたしは人の役に立とうとしている」「わたしは前向きな言葉を言うように心がけている」で「そう思う(楽しい)」が児童90%以上を達成する。	・「今、休憩時間は外で元気に遊んでいる」で「あてはまる」が児童90%以上を達成する。	・「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」で「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて保護者90%以上を達成する。
重点目標【P】	◎言語活動・主体的な学習の充実 ◎授業研究の充実 ○基礎学力の定着 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進	◎道徳・人権教育の推進 ◎望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成 ○いじめの未然防止、早期発見	・体育科の授業の充実を図り、子どもの運動能力・体力の向上に努める。 ・外遊びの推奨や校内縄跳び大会等の開催を通じて体力の向上を図る。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する。	・学校だより、学級だより、HP等様々な手段で、学校の教育活動や児童の様子を保護者や地域の方々に情報発信する。 ・祭りや集会等を通じて地域の方々との交流を図る。また、保護者が地域の一員として子どもたちを育てていこうとする意識を高める取り組みを進める。
取組の状況【D】	・自分の考えを積極的に伝え、学び合う機会を多く取り入れるよう努めた。 ・研究教科を算数に絞り、学習指導案の事前協議、研究授業、研究協議をセットにして各学年の授業研究を行った。さらに授業の工夫改善を図りたい。 ・読書習慣の定着と俳句作りで言語感覚を磨く取り組みを続けた。 ・基礎学力向上のため日々の宿題の質を高めた。 ・タブレットのドリルを使ったり、「けいこの時間」に漢字検定や計算練習、作文などを続けた。 ・タブレットを利用した学習に全学年取り組んだ。意見の交流に使ったり、プレゼンの資料作りをしたり様々な場面で利用して学習した。 ・学校評価アンケート「わたしは毎日の勉強がわかる」で「とてもそう思う、そう思う」は、1・2・3年で87.2%、4・5・6年で79.2%で、昨年の全体で76%より改善している。子どもたちの聴く力と聞こうとする姿勢を引き続き育てていきたい。	・「道徳」の時間をはじめ、全教育活動を通じて道徳教育・人権教育をすすめた。 ・校外児童会や縦割り清掃、縦割りでの集会、縦割り防災学習等、異年齢で活動する機会を多く取り入れた。 ・「福島のきまり」等について全教職員で共通理解を図りながら、全員が同じ指導を行うよう心がけた。また、保護者へも指導内容を知らせ、家庭と連携を図りながら指導を行った。 ・学校だよりでより良い物事のとらえ方、考え方について提起し、人への思いやりや前向きな言動を心がける取組を進めた。 ・「いじめアンケート」を年間に複数回実施しいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めた。 ・学校評価アンケート「私は学校が楽しい」で「とてもそう思う、そう思う」は1・2・3年で89.5%、4・5・6年で93.5%となっている。「私は人の役に立とうとしている」で「とてもそう思う、そう思う」は1・2・3年で91.9%、4・5・6年で90.2%と共に90%以上である。	・体育科の授業の充実を図り、子どもの運動能力・体力の向上に努めた。 ・低中高ブロック別に縄跳び大会を開催し、目標を決めて頑張ることができた。 ・機会あるごとに「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨した。 ・養護教諭を中心に食育、保健教育、今年度は特に歯の健康指導を進めた。給食後の歯みがきを徹底できるよう委員会活動を通して啓発を続けている。 ・「交通安全教室」「津波による高台への避難訓練」「不審者対応訓練」を行い、危機回避能力を育成するよう努めた。	・学校だより、学級だより、HP等様々な手段で、学校の教育活動や児童の様子を保護者や地域の方々に情報発信するよう努めたが、「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」では、「そう思う」75%で十分な成果は感じられなかった。 ・今年度は、夏祭りで俳句教室では、全校児童が投げ出し、前校長の中村先生から指導いただいた。秋祭りではおみこしを担ぐなど地域の伝統行事に参加できたことがありがたかった。また昔遊びや、町探検等地域の自然・文化の活用ができた。 ・秋フェスティバルでは、地域の方からの協賛金や出し物の協力を受けて行うことができた。 ・ゲストティーチャーとして、和歌山健康大使 わかきん先生の協力を得て、5年生に向けてキャリア教育講演をしていただいた。
取組の成果と課題【C】	・タブレットを利用した学習に取り組んだ。 ・県学習到達度調査における国語の平均正答率が4年では、県平均を2.4ポイント上回り、5年では0.3ポイント下回った。4年生においては、県平均に比べて話すこと、聞くことの正答率が高い。5年生においては、前年度－1.3%差から差を詰めることができた。算数では、平均正答率は県平均より少し低いが、思考・判断・表現の観点の正答率は、4・5年いずれも県平均より高い。研究授業を算数に絞り取り組んでいる成果と考えることができる。	・学校評価アンケート「わたしは、学校が楽しい」「私は人の役に立とうとしている」で、目標を達成した。 ・学校だよりでより良い物事のとらえ方、考え方について提起し、人への思いやりや前向きな言動を心がける指導を行ったが、学校評価アンケート「私は、前向きな言葉を言うように心がけている」で、目標を達成できなかった。 ・縦割り活動による高学年の成長が見られた。全校の児童一人一人を全教職員で育てるという意識で取り組みを進めた。	・育友会と共に津波を想定した避難訓練を行い、警察署の協力を得て不審者対応訓練を行い、危機回避能力を育成した。 ・「生活リズムチェック」から、朝食抜きの児童や給食後の歯磨きをしていない児童、寝るのが遅い児童、ゲームの時間が長い児童がいた。 ・低中高ブロック別に縄跳び大会を開催し、目標を決めて頑張ることができた。大休憩や昼休憩に児童は一生懸命に練習していた。 ・学校評価アンケート「今、休憩時間は外で元気に遊んでいる。」で目標を達成した。	・LINEスクール連絡帳の活用については、少しではあるが、進めることができた。ICT活用等情報発信の仕方を検討していく必要がある。 ・地域の祭りへの参加、ゲストティーチャーの来校の機会が増え、たくさんの方々との交流の機会が増えている。 ・「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」では、「そう思う」75%で十分な成果は感じられなかった。ホームページの更新及びLINEスクール連絡帳の活用など改善していきたい。
改善方法【A】	・算数科に絞った研究をさらに進める。研究授業の学習指導案の事前検討の時間や、教職員の教師としての力を育成する現職教育の時間を確保し、積極的に進めていく。 ・福島小学校の各学年で付けさせたい力を明確にし、その実現のための指導内容と具体的な指導技術を共有し、全教職員が共通の指導を行っていく。本校独自の指導目標・基準を設定する。その上で全職員が一丸となって学級経営、授業、生徒指導の場面でそれを意識しながら児童の指導にあたることとする。	・教育活動全体の相互のつながりとそれぞれの活動の意義をしっかりと認識し、それらの指導を通じた道徳教育、人権教育の取組を進める。 ・縦割り班活動の意義、価値を再認識し、教職員が共通理解した上で改善充実をさらに進める。 ・外部人材を登用し、人権教室や情報モラル教室を進める。 ・学校だよりでより良い物事のとらえ方、考え方について提起し、人への思いやりや前向きな言動を心がける指導をさらに進めていく。	・体育の授業改善をめざし、児童自らが体力づくりに取り組むように努める。 ・子どもたちは外で遊ぶことをとても大切にしている。その気持ちを大切に維持し、体力の向上に努めていく。 ・家庭と連携して「ゲームの時間の約束」「早寝、早起き、朝ごはん」「歯磨きに徹底」等をすすめる。 ・地域とともに行う津波避難訓練の改善充実を進める。行動範囲が広がるにつれ、一層、危機回避能力を育てる必要がある。	・ICTの活用を進め情報発信の仕方を考えていく。 ・交通量が多くなっている中、通学路の安全を見直す。 ・校区内で交通量が多く危険な場所を知らせる動画を年度当初にも視聴させ、自分の身を自分で守る意識を高める指導を行う。 ・地域と一体になって、避難訓練を見直し実行する。 ・保幼小の接続、中学校区での小・小、小・小の連携協力をさらに進める。

3 その他の課題

・相手の話をよく聴き、相手の成長に貢献しようとし、互いを認め合える子どもの育成、困難を乗り越え生き抜く力、どのような状況下でも自己コントロールできる力をもった子どもの育成に努める。

・地域全体で地域の子どもの育てるという意識を共有し、保護者地域の方々と連携・協働して「地域とともにある学校づくり」「課題解決に向けての取組」を効果的に進める。